

令和7年度 教科研修会Ⅰに向けた授業の構想

音楽科

1 音楽科の研究テーマ

音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方

2 音楽科として育成を目指す資質・能力の受け止め（研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体的な姿）

- ・有節的な楽曲について、感じたイメージと「強弱」などの表現要素を関わらせて表現を考えたり、歌い試したりしている姿
(1 学年、歌唱分野)
- ・有節的・通作的な楽曲について、感じたイメージと表現要素や「構成」などの構成要素を関わらせて、その曲にふさわしい表現を考えたり歌い試したりしている姿
(2 学年、歌唱分野)
- ・通作的な楽曲について、感じたイメージと表現要素や「テクスチュア」など複数の構成要素を関わらせて、その曲にふさわしい表現を考えたり歌い試したりしている姿
(3 学年、歌唱分野)

3 題材名・学年 「情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう」・3 年

4 題材の概要（全3時間扱い 本時は第3時）

題材の学習問題

「花」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を歌で表わそう。

題材展開

時間	学習活動
第1時	◆『花』の歌詞の内容を理解し、情景を想像したり、心情を感じ取ったりする ・曲想と拍子の特徴との関わりを理解しながら歌う。 ・現代語訳や写真資料を基に歌詞の内容を確認し、想像した情景や感じ取った心情を友と共有し、題材の学習問題を設定する。 【題材の学習目標】「花」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を歌で表わそう。 ・それぞれの情景を思い浮かべながら1～3番まで通して歌う。
第2時	◆<u>強弱や旋律の特徴について知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気</u>を感受しながら、<u>どのように表現したいか思いや意図をもつ</u> ・1～3番を比較する中で、強弱や旋律の特徴について理解し、それらが曲想に与えている効果を感じ取る。 ・歌い深める中で特に大事にしたい部分を1つ選び、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すか、思いや意図をワークシートに記入する。
第3時 (本時)	◆<u>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表す</u> ・3番について、それぞれの思いや意図をワークシートに記入し、全体で共有したり、歌い試したりする。 ・全体で歌唱表現を追求しながら、思いや意図を実際の歌唱で表すことができるような技能を身に付ける。 ・題材の中で見いだした表現方法や今後の歌唱に生かしていきたいこと、授業の中で見つけた「花」の魅力についてワークシートに記入する。

音楽科学習指導案

令和7年5月14日（水）5校時 音楽室

授業学級 3年B組（40名）

授業者 志賀 浩介

- 題材名 「情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう」
- 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表す歌唱表現を追求する場面で、旋律の歌い方や強弱の生かし方に着目して、情景や心情を表すための3番の表現を考え、友と考えを共有したり歌い試したりして見いだす活動を通して、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能を身に付けて歌うことができる。 【A(1)ア イ(ア) ウ(ア)】
- 題材の学習目標：「花」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を歌で表わそう。
- 本時の位置（全3時間中 第3時）
前時：強弱や旋律の特徴について理解し、どのように表現したいか思いや意図をもった。
- 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。	題材の学習問題：「花」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を歌で表わそう。 ア 1～3番は全然違う情景が歌われているが、それに合わせて強弱や旋律の動き方も変化していた。 イ 「にしきおりなす」の部分は出だしのfを生かして力強く、その後の「ちょうてい」の部分は旋律の流れを意識して、fでもなめらかに歌いたい。 学習課題：旋律の歌い方や強弱の生かし方に着目して、情景や心情を表すための3番の歌い方を見いだそう。	- 題材の学習問題に立ち返り、今までの学習の振り返り、通して歌うように促す。 - 前時で考えた大事にしたい部分とその表現方法を共有する場を設け、イのような発言から学習課題を据える。	10分
	2 3番の表現方法を個人で考える。	ウ 「おぼろづき」の部分の強弱はpになっており、その強弱を生かして、“ぼんやり”した感じを出せるようにしたい。また、その次の「げに一刻も」の部分は対照的にfになっており、美しさに感動する思いの高まりを感じるので、そういった思いも表したい。 エ 「おぼろづき」はやさしく語りかけるように発音することでpを生かし、「げに一刻」からは一音一音を強調するように旋律のまとまりを意識して感動を表現したい。	- ワークシートを配付し、3番の情景や心情を表すための表現方法を考え、書き込むように促す。 - 机間指導を行い、各生徒の学びを確認して指名計画を立てる。記入が進まない生徒には、大事にしたい旋律と言葉を問い、歌い方を例示するなどの支援をする。	10分
展開	3 表現方法についての考えを全体で共有し、歌い試す。	オ 「おぼろづき」をやさしく語りかけるように発音するために、温かい息を送るような息遣いで歌うことで、“ぼんやり”とした感じを表す表現に近付けられそう。 カ 「おぼろづき」の直前ではやや時間をかけて優しく、「げに一刻」の直前ではスッと鋭いイメージで息を吸うというように、息の使い方を工夫することで、それぞれの旋律に適した歌い方が出来そう。	- エのような意見を紹介し、それぞれの「発音の仕方」をどのように工夫すればよいか全体に問い返す。 - オのような意見を取り上げ、あえて真逆の歌い方を試したり、具体的な発音の仕方を示したりして、実際に歌い表わせるように促す。	20分
	4 本時と題材の学びを振り返る。	キ 旋律の歌い方や強弱の生かし方に着目して追求した。大事にしたい言葉の発音の仕方や、発音する直前の吸い方などの息の使い方を身に付けることで、自分たちが考えた表現に近付けていくことができた。（本時の振り返り） ク 歌詞の言葉一つ一つを大切に、それぞれの歌い方を工夫することで、情景や心情を表す表現になった。「花」は100年以上前の曲だが、満開の桜を前にした感動がありありと伝わる魅力のある曲だと感じた。（題材の振り返り）	創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能を身に付けて歌おうとしている。（観察・ワークシート） - 題材のまとめとして通して歌う場を設ける。 - 本時・題材の学習を振り返り、ワークシートに記述するように促す。 キ、クのような意見を取り上げ、全体で共有する。	10分
終末				